氏名	橘 本 訓 招
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	博乙第 1877号
学位授与の日付	昭和63年 3 月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）
学位論文題目	Serum Type IV Collagen—Degrading Enzyme in Hepatocellular Carcinoma with Metastasis （肝内および肝外転移を伴う肝細胞癌における血清Ⅳ型コラーゲン分解酵素活性の上昇）
論文審査委員	教授 太田善介　教授 木村郁郎　教授 産賀敏彦

学位論文内容の要旨

肝細胞癌の肝内および肝外転移に際し，肝癌細胞による脈管基底膜の破壊が起こる。Ⅳ型コラーゲンは，脈管基底膜の主要構成成分のひとつであり，Ⅳ型コラーゲン分解酵素により特異的に分解される。血清を 4 −aminophenylmercuric acetate と trypsin を使って活性化することで，血清中においてⅣ型コラーゲン分解酵素活性を測定した。健常人，肝硬変例および肝細胞癌例において，本酵素活性を測定した結果，門脈に腫瘍塞栓を有する肝細胞癌例で有意に上昇し，肺転移を有する症例ではさらに高値を示した。また，本酵素活性は肝癌組織でも高値を示すので，肝細胞癌例における血清中の本酵素活性の上昇は肝細胞癌による脈管基底膜の破壊を反映していると考えられた。したがって，血清Ⅳ型コラーゲン分解酵素活性は，肝細胞癌の転移のマーカーになりうることが示唆され，肝細胞癌の治療方法の選択や治療効果の判定において本酵素活性を測定することは，臨床的に有用であると思われた。

なお，本論文は共著論文であり，共著者の協力を得て完成したものである。

論文審査の結果の要旨

本研究は健常人，肝硬変例および肝細胞癌例において，血清を 4 −aminophenylmercuric acetateとtrypsinを使って活性化することで血清のⅣ型コラーゲン分解酵素活性を測定したもので，同酵素活性は門脈に腫瘍塞栓を有する肝細胞癌例で有意に上昇し，肺転移を有する症例ではさらに高値を示した。この成績は血清Ⅳコラーゲン分解酵素活性は，肝細胞癌の転移のマーカーになりうることを示唆したもので臨床的に有意義な業績と考える。

よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。